



“Video-based Approach to Movement Disorders” 寺尾安生

7月31日(金)

・ Plenary 3 – Latest Treatments in Parkinson Disease

“Parkinson Disease Treatment: Current Perspectives and Future Directions” 高橋良輔

・ Symposium 9 –Neuroscience Training in ASEAN

“Can we collaborate with Japanese Society of Neurology on This Project?”

宇川義一

この中で、特に Symposium 9 においては、ASEAN 各国での神経内科を中心とする医療の現状が報告され、ASEAN 域内での診療水準格差が極めて大きいことが明らかにされた。例えば、人口 650 万人のラオスでは神経内科医は 2 人しかおらず、人口が 5500 万人のミャンマーでは 30 人しか神経内科医がいない (図 1)。このような現状を踏まえ、JSN としては、今後 ASEAN 地域内での神経内科医療水準向上に寄与する意思があることが宇川委員長から表明された (図 2)

図 1

Country	Population (m)	Neurologists	Neuro per pop
Brunel	0.4	5	80,000
Cambodia	16	8	2,000,000
East Timor	1	0	0
Indonesia	250	1000	250,000
Lao	6.5	2	3,500,000
Myanmar	55	30	1,800,000
Malaysia	30	80	375,000
Philippine	90	400	225,000
Singapore	6	70	85,000
Thailand	65	800	80,000
Vietnam	90	500	180,000



### 3. ASNA 役員会への参加

ASNA 役員会にゲストとして、高橋代表理事、宇川委員長、西野が招かれ、日本神経学会と ASNA との共催ワークショップについての審議が行われた。西野が昨年度開催されたインドネシア神経学会との共催ワークショップを含む経緯を報告するとともに、今後、日本神経学会が ASEAN 域内での神経学向上に寄与する意思があることを表明した。ASNA 側からは提案を歓迎する旨が伝えられたが、各国での事情が異なることもあり、具体的な事項に関する決定については持ち越された。一方、ASNA 側でも、シンガポール・マレーシアを中心とするボランティアチームが独自の活動として ASEAN 域内の神経学後進域に向いて診療水準向上に務めていることが報告された。

#### 4. 当面の方向性

ANSA 役員会で得られた情報などを踏まえ、JSN としては、将来的な ASNA との連携の可能性も含め、当面は下記のようなスキームで共催ワークショップを開催する方向で進めていくのが望ましいのではないかと考えられた。

- ASNA 隔年学術集会開催 — 学術集会に併せて、現地神経学会との共催ワークショップを開催
- ASNA 隔年学術集会非開催年 — ASNA チームとともに ASEAN 域内の神経学後進地域に JSN から神経内科医を派遣し、現地神経学会との共催ハンズオン・ワークショップを開催

次回 ANSA 隔年学術集会は、2017 年にフィリピンで開催されるが、フィリピン神経学会からの代表は上記の案に対して極めて肯定的であった。また、2016 年については、ASNA のボランティアグループがミャンマーに出向き、Movement Disorder を軸とするハンズオン・ワークショップ開催を計画しており、国際対応委員会としても密に連絡を取り、連携していく方向である。

#### 3. 総括

第 2 回の JSN 国際共催ワークショップを ASNA 隔年学術集会の一部として行った。JSN から派遣された 5 名は主催者側より歓待を受け（図 3：懇親会での様子）、各講演は何れも好評であった。ASEAN 域内での神経学の水準には大きな格差があることが明らかとなった。JSN からのハンズオン・ワークショップ開催の提案は前向きに大きな期待を持って受け止められているが、当面は隔年学術集会を主催する現地神経学会と個別に共催についての打診を行っていくことが必要と考えられる。



文責：宇川義一、西野一三